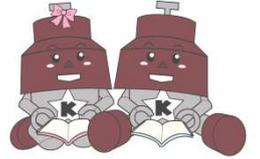




165号 2020.3

川口市立図書館

図書館だより



パソコン用ホームページ URL—— <https://www.kawaguchi-lib.jp/>

スマートフォン用ホームページ URL—— <https://www.kawaguchi-lib.jp/opac/s/>

携帯電話用ホームページ URL—— <https://www.kawaguchi-lib.jp/opac/k/>



↑スマートフォン用QRコード

公式ツイッターアカウント —— @kawaguchi_lib

携帯用QRコード↑

わたしの今年の一冊 2019

昨年お読みになった本の中で、印象に残った一冊を紹介していただく「わたしの今年の一冊」は、今回で24回目となりました。たくさんのご応募をいただきましたが、紙面の関係で 22点掲載させていただきます。

「隠居すごろく」

西條奈加／著

KADOKAWA 2019 年刊 913.6/サ

商売を隠居して店とは別の家に暮らし始めたが、日参してくる孫がいつも難題を持ち込み次第に大所帯になっていく。最初は頭をかかえていたがみんなの幸せや生きる道を探して行動するご隠居さんがカッコいい。

(40代)

「スープ屋しずくの謎解き朝ごはん」友井羊／著

宝島社 2014 年刊 B913.6/ト

舞台はスープ専門店「しずく」。店を訪れる人が抱える様々な問題を、店主が解決していく短編集だが、本編中に出される数々のスープの描写が素晴らしい。素材の説明に始まり、湯気がたちのぼっている様子まで想像できるほど。美味しそうなお湯が出てくるたびに、飲んでみたいと思わせる著者の文書力に感嘆。ミステリーの要素が強いが、料理小説としても楽しめる。

(40代)

「タスキメシ 一箱根」

額賀滯／著

小学館 2019 年刊 913.6/ヌ

箱根駅伝、多くの選手が夢みる舞台。けれども走ることができるのはほんの一握りの人だけ。主人公は高校・大学時代のケガからタスキを受けること、誰かにつなげることができなかつた長距離走選手。「努力は人を裏切る」くやしくせつない経験を重ねたその先に何を掴むことができるのか。くやし涙を流したことのある人にぜひ読んでほしい。前編の「タスキメシ」とあわせてオススメ。(50代)

「駄目な世代」

酒井順子／著

KADOKAWA 2018 年刊 914.6/サ

昭和 41 年生まれの著者のエッセイです。同世代には「あーあったあった」「懐かしい」と思うことが盛りだくさん。軽快な語り口ですが、考えさせられる部分もあります。同世代の方はもちろん、そうでない方も軽い気持ちでどうぞ！(50代)

「掃除婦のための手引き書」

ルシア・ベルリン／著 岸本佐知子／訳

講談社 2019 年刊 933.7/ベ

ルシア・ベルリンの文章に最後までひきつけられました。家族や職場や日常のドラマや小さな一場面など変化のある構成の短編集でもう一度読みたい話が多々ありました。詩的でユーモアのある表現も多く、(鶴の羽ばたき、けがをした騎手、コインランドリー乾燥機の中で回っている服など)物事を見る目に魅了されました。(50代)

「在宅ホスピス」という仕組み 山崎章郎／著

新潮社 2018 年刊 490.1/ヤ

1996 年に出版された「病院で死ぬということ」を読んで以来、山崎先生の本をずっと読んできた。延命治療と最期まで人間らしくありたいという私の思いがひとつひとつうなずけるからだ。この本では、在宅で最期を迎えるためにはどうすればいいのかということと、とても丁寧に教えてくれている。近い将来、団塊世代が 75 歳を超え、ベッド数が不足し、死に場所難民時代がやってくる。だれもがいずれ迎える老いと死のために、是非読んでおきたい本である。

(60代)

「よのなかルールブック」

高濱正伸／監修 林ユミ／絵

日本図書センター 2019年刊 K 159/3

メシが食える大人になる！という言葉が目をひき、小学5年生の息子にと読んでみたが、どっこの大の大人の私にもうなずけるルールが満載！是非お父さんも御一読を！！ (50代)

「失われた足跡」

カルペンティエル／作

牛島信明／訳

岩波書店 2014年刊 B 963/カ

寄辺ない都会を離れ、まぼろしの楽器を求めてアマゾンの奥地へと遡ってゆく主人公。それは単なる川の遡江ではなく、時代を逆流してゆく旅だった。そして主人公自身も徐々に未開人化し、喜びを感じるようになってゆく。けれども、時に文明は荒々しく人の心に踏み込んでくる。ジャングルでの生活に喜びを見出した主人公の運命やいかに…。とても読みごたえのある作品でした。(60代)

「競歩王」

額賀澤／著 光文社 2019年刊 913.6/ヌ

競歩…あの変な歩き方のやつ？あれって面白いのかな？スランプの若手作家と競技者の話です。まだまだメジャーになり切れない競歩、本を読んで、ルールや恵まれない環境の中で頑張っていることを知りました。オリンピックが近づいて来ています。この本を読んで競歩の世界をのぞいてみませんか？(年代不詳)

「メインテーマは殺人」

アンソニー・ホロヴィッツ／著 山田蘭／訳

東京創元社 2019年刊 B 933.7/ホ

イギリスでドラマの脚本や映画作品にも関わる作者は、超有名俳優、監督、舞台や本の名前、そしてクリスティやドイル作品のオマージュまで宝石のようにあちこちに散りばめつつ進むので読みだしたら止まらない、いえ、読むのを止められないミステリーです。さらに登場する探偵もどきは一癖も二癖もある俺様探偵。楽しい読書時間を堪能できました。(50代)

「噛みあわない会話と、ある過去について」

辻村深月／著 講談社 2018年刊 913.6/ツ

4編からなる。その中でも2編めの「パツとしない子」が特に印象的である。何気なく言った言葉がどれだけ人を傷つけていたのか、ずっと後になってわかるのである。心理をえぐる描写がある意味ホラー的でぞっとするが、今年一番ひきこまれた本である。(50代)

「戦場のコックたち」

深緑野分／著

東京創元社 2015年刊 913.6/7

第二次世界大戦、ノルマンディー降下作戦から、戦禍にのみこまれていく合衆国の第101空挺師団パラシュート歩兵連隊管理部付きコック達の戦場が描かれる。生き残れるのは「運」だけであり、少しの弱さも生命とりとなる酷い状況の中でも、友情が生まれ仲間を思いやる若者たちに胸が切なくなる。2段 345ページの大作だが、作者は82年生まれ！凄い。丸一日で一気に読み、次の日再読する位、好きな本である。(60代)

「エンジェルフライト」

佐々涼子／著

集英社 2012年刊 673.9/サ

知らなかった。海外で不慮の事故で亡くなった友人もこちらでお世話になったのだろうか。国際霊柩送還とは外国と国内との間で遺体の搬送を行い、生前の表情(エンバーミング)に戻した後に遺族に遺体をお返しするのが仕事だ。国際版「おくりびと」と言ったところだろう。

外国から届いた遺体は長時間経過し損傷が激しいことも珍しくない。もし彼らがいなければ遺体は「貨物」扱いのままで遺族に引き渡される事になる。その時の遺族の悲しさ、くやしき、やりきれない気持ちは計り知れない。

国際霊柩送還を扱っている企業はほとんど無く業界団体も無い。スポットライトを浴びる事も無い。だが彼らは高い自負と責任を持っていた。

世間には知られていないが無くてはならない仕事がある。いやほとんどがそうであろう。これから就職活動をする学生はもちろん、仕事に向き合えない先輩・ベテラン社会人にもお勧めの一冊です。(40代)

「あしたの君へ」 柚月裕子／著

文藝春秋 2016年刊 913.6/ユ

5話からなる家裁調査官補の物語。家裁に持ち込まれる案件は、少年事件であれ家事事件であれ、常識的な判断では補えきれない事件が多い。調査官の見習いである望月大地は、自分の資質に疑問を持ちながらも、地道な努力でその事件の本質を明らかにしていく。少女の魂の叫びを探り当てながらその真実に迫っていく「背負う者」、モラルハラスメントを扱った「責める者」など、何時でも人間の底にある真実を暴きだしてやまない。良い本である。(60代)

「ぼくらの七日間戦争」 宗田理／作

角川書店ほか 1985年刊ほか 913.6/ソ

前から読んでみようと思っていたこの本。手にとって読んでみると「ぼくら」という子どもの立場から見た大人への思いにとても共感できました。また、ぼくらの大人へ立ち向かう姿にとても勇気をもらいました。新時代の幕開けである令和元年には子どもたちの姿が生き生きと描かれているこの本がふさわしいでしょう！(10代)

「つるかめ助産院」 小川糸／著

集英社 2010年刊 913.6/オ

やさしいタイトルと表紙にひかれて初めて小川糸さんの本を借りました。「お産」という、人生の大イベントが、自然なひとみとしてえがかれていて、読んだ後にすがすがしい気持ちになりました。自分の出産を思い出してしまい、ところどころで涙してしまいました。ステキな“いやし”の本です。(40代)

「しあわせしりとり」 益田ミリ／著

ミシマ社 2019年刊 914.6/マ

「そうだね。本当にそうだね」と素直に言えるフレーズに、何度も出会いました。大それた事ではないんです。普段の生活の中でポワッと浮かんではすぐに消えていってしまうような思いを、ちゃんとすくい取って言葉にしてくれてる、うれしい本でした。(50代)

「落日」 湊かなえ／著 角川春樹事務所 2019年刊 913.6/ミ

昨夜の夕食後から読み始めたところ、途中でやめることが出来なくなってしまい、読み終えたのが朝の5時です。ページを繰るのがもどかしいくらいでした。最後はここでこう繋がったのか！とやっと安堵。(50代)

「また、同じ夢を見ていた」 住野よる／著

双葉社 2016年刊 913.6/ス

子どもの頃に描いた未来。大人になって描いた通りの人生を歩んでいる人はそう多くはないでしょう。誰しもが過去を悔やみ、それでも幸せを探し、前を向いて今を生きています。そんな私たちの背中をそっと押してくれる1冊です。(20代)

「船に乗れ!」 藤谷治／著

ジャイブほか 2008年刊ほか 913.6/フ

高校でチェロを専攻するサトルの物語。かつての自分にもあった、恥ずかしい気持ち、苦しい気持ち、認めたくないたいしたことない自分、深い後悔がたつぷり。それでも瑞々しい演奏が心に響く。ラスト「船に乗れ!」という先生の言葉は心に深く刻まれ、これからは生きていくのだという気持ちにさせてくれる。(50代)

「性の授業死の授業」輝く命との出会いが子どもを変えた

金森俊朗／著 村井淳志／著

教育史料出版会 1996年刊 375.4/カ

古き良き学校で実際に行われた命の授業を題材にした一冊。妊娠約8カ月の保護者を招いた性の授業と、末期がん患者を招いた死の授業を通して児童が本気で命について考えた記録が記されている。人とのつながりが希薄になり「性」「死」を感じなくなった現代に再び読みたい。(20代)

「母」 三浦綾子／著

角川書店 1992年刊 913.6/ミ

特高に虐殺された小林多喜二の母、セキの語りで進む物語。明治の農村で生まれたセキ。農村の厳しい暮らしがまず胸に刺さります。そして母の語りゆえ、あまりよく知らなかった多喜二の姿が生き生きと感じられます。母として子がこのような最期をとげるのは何より辛かったです。「小林多喜二は虐殺された」だけでなく明治の時代を普通に恋をして、精一杯生きていた一人の青年だったと感ぜられるお話でした。(40代)

このほか、

- 「時間(とき)の花束」三浦百恵／著
- 「余命 10 年」小坂流加／著
- 「戦友の恋」大島真寿美／著
- 「マカン・マラン」古内一絵／著
- 「ユニセフではたらこう」和氣邦夫／著
- 「dele」本多孝好／著
- 「チーズはどこへ消えた?」スペンサー・ジョンソン／著
- 「ジャングルで乾杯!」林美恵子／著
- 「極限メン!」西牟田靖／著
- 「狂うひと」梯久美子／著
- 「車夫」いとうみく／著
- 「ものの見方が変わる座右の寓話」戸田智弘／著
- 「芸人交換日記」鈴木おさむ／著
- 「幸せになりたければねこと暮らさなさい」樺木宏／著
- 「人魚姫の椅子」森晶麿／著
- 「人喰い」カール・ホフマン／著
- 「田宮二郎の真相」石田伸也／著
- 「歳月」茨木のり子／著
- 「ホワイトラビット」伊坂幸太郎／著
- 「円卓」西加奈子／著
- 「know」野崎まど／著
- 「また、同じ夢を見ていた」住野よる／著
- 「死ぬまでに行きたい!世界の絶景」詩歩／著
- 「アルプスの少女ハイジ」ヨハンナ・シュピリ／著
- 「君が夏を走らせる」瀬尾まいこ／著
- 「旅はワン連れ」片野ゆか／著
- 「三日月が円くなるまで」宇江佐真理／著
- 「また、同じ夢を見ていた」住野よる／著
- 「実さえ花さえ」朝井まかて／著

……などの本をご応募いただきました。

紙面の関係で、お寄せいただいた感想や
書名のすべては掲載できませんでした。
ご協力いただきました皆様、
ありがとうございました!!



「図書館だより」に毎号掲載している「川口市立図書館カレンダー」は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策としての臨時休館措置に伴い、本号への掲載を省略させていただきます。最新の開館情報については、図書館ホームページ等でご確認ください。

川口市立図書館 連絡先・開館時間

【中央図書館】

☎ 048(227)7611
住所: 川口市川口 1-1-1

平日
午前 10 時～午後 9 時

土・日・祝休日
午前 9 時～午後 6 時

【前川図書館】

☎ 048(268)1616
住所: 川口市前川 1-3-18

【戸塚図書館】
☎ 048(297)3098
住所: 川口市戸塚東 3-7-1

平日 午前 10 時～午後 6 時

【新郷図書館】

☎ 048(283)1265
住所: 川口市東本郷 1688

【鳩ヶ谷図書館】
☎ 048(283)3110
住所: 川口市坂下町 3-16-6

土・日・祝休日 午前 9 時～午後 5 時

【横曽根図書館】

☎ 048(256)1005
住所: 川口市仲町 10-16

【芝園分室】

☎ 048(269)2241
住所: 川口市芝園町 3-17

平日
午後 1 時～午後 5 時

土・日・祝休日
午前 10 時～午後 5 時